

# 令和3年度ブロック別総合型地域スポーツクラブミーティング報告書



本事業は「スポーツ振興くじ助成」を受けて実施しています

## 1 開催期日・会場

ブロック	期 日	会 場
北	11月26日	四日市総合体育館 大会議室
中・伊賀	8月 3日	三重県 津庁舎 大会議室
南勢志摩	11月30日	三重交通G スポーツの杜 伊勢 控室3、4
東紀州	8月 5日	熊野市文化交流センター 交流ホール

## 2 参加者数

ブロック	参加者数	クラブ数
北	35人	6クラブ
中・伊賀	24人	8クラブ
南勢志摩	32人	10クラブ
東紀州	7人	4クラブ
合計	98人	28クラブ

## 3 登録・認証制度について

令和4年度から始まる新制度について、三重県スポーツ協会より説明。



## 4 SNS使い方講座・担当アドバイザー

ブロック	SNS使い方講座	情報交換アドバイザー
北	株式会社Eプレゼンス	田中 由紀子 [NPO法人楠スポーツクラブ]
中・伊賀		清水 栄嗣 [伊賀フューチャーズクラブ]
南勢志摩		田中 由紀子 [NPO法人楠スポーツクラブ]
東紀州		田中 栄一 [一般社団法人府中スポーツクラブ]

## 5 SNS使い方講座

- (1) 講師：株式会社Eプレゼンス 中谷 忍
- (2) LINEの機能紹介、その他SNSツールの紹介（Facebook、Instagram、Twitterなど）



## 6 情報交換会（グループワーク）

(1) 講師：三重県クラブアドバイザー

(2) テーマ①「総合型クラブの知名度向上及びクラブ活動の活性化を狙うイベントを実施するためには、どのような方法が効果的か考えよう！」（東紀州、中・伊賀ブロック）

テーマ②「コロナ禍におけるスポーツ活動について考えよう！～コロナ禍でもできる教室・イベントとは～」（北、南勢志摩ブロック）

(3) グループで意見交換



(

#### 4) 各グループからの発表内容

##### ・テーマ①

###### 【東紀州ブロック】

○場所：体育施設や、小学校の体育館のような人が集まる場所、集めやすい場所

○対象：子供や保護者、男性（若者から中高年まで）

○内容：ACPなど親子で遊べる内容、体育施設を活用したバドミントン、昆虫探しウォーキング健康マージャン、筋力アップフィットネス、ゴルフ



###### 【中・伊賀ブロック】

○場所：小学校、市民センターのような人が集まる場所、集めやすい場所

○対象：子供から高齢者

○内容：ニューススポーツやレクリエーションなど参加しやすい種目の無料体験会、SNSを活用したイベント、総合型クラブにない種目の実施



##### ・テーマ②

###### 【北ブロック】

○マスクの着用やアルコール消毒、三密対策を徹底することなど基本的な感染対策を踏まえた実施が必要である。

○県外からの参加者もいるため、体調管理チェックシートの活用など、感染対策の工夫が必要。

○種目・教室については屋内、屋外でできるスポーツを検討し、できる種目を実施すべき。

○外でできる種目として、ディスクゴルフ、アウトドアレジャー、グラウンドゴルフ、ビーチヨガ、ビーチでごみ拾いを兼ねた活動を実施するのはどうか。



### 【南勢志摩ブロック】

○屋内であっても、ソーシャルディスタンスを確保したダンス教室の実施や、オンラインツールを活用したキッズ体操などができるのではないかな。

○会員からアンケートをとり、そのニーズに応じた種目や教室を検討・実施すべき。

○広報の際はSNSを活用し、幅広く情報提供することが効果的。



### (5) まとめ（アドバイザーより）

#### 【田中 栄一アドバイザー】

○子どものみの対象とするのではなく、親子交流会として実施することで、子どもとその親の両方に総合型について知ってもらうことができる。

○種目について、総合型の色を出すために、スポーツ少年団とは違う種目に取り組むのはどうか。



#### 【清水 栄嗣アドバイザー】

○総合型が地域に発足して20年になるが、いまだ知名度が低いのが現状である。知名度を上げるためにはまず総合型について知ってもらうことが必要であり、子ども、高齢者などターゲットを絞って教室を開催することが効果的である。

○スポーツとは勝った負けたのものだけでなく、楽しく、そして気軽にできるものも含めてスポーツである。

○総合型が地域のコミュニティとして活動することで、自然と人も集まり、知名度も上がっていくと思う。



#### 【田中 由紀子アドバイザー】

○コロナ禍において運営に苦勞する部分が多くあるが、会員だけでなくスタッフのモチベーションの維持が大切である。

○対面形式での実施が難しいからこそ、LINEをはじめとしたSNSツールを活用し、コロナ禍でもできることを模索することが求められる。

○コロナに負けないよう、クラブが一体となって今後の活動に取り組んでほしい。

